

国際部の礼儀・立ち居振舞いの良さに武道家としての本筋を見せて頂いた様な衝撃を受けたものでした。

我々日本人の礼儀の良さはどこへ行ってしまったのか。正直、そこまでしなくてもと思う所もありますが、良い所は見習うべきではないでしょうか。大会毎に思うのですが、呼ばれても返事が聞こえないのは何故なのでしょう。最低限の礼儀のほはずでは。子供たちに伝えていくべき大人が心して実践していかないと伝わってはいかないと思います。

武道を志している以上、一般の方々よりもなお一層大切にすべきことだと思っています。

検証委員

範士八段 成田 守

文化交流と武道交流を通し、張り詰める熱気と真剣な眼差し、一糸乱れず気迫のこもった演武は見るものを魅了する素晴らしいものでした。

一 武道家として言葉の壁もありますが、情熱あふれる武道家がそれぞれの思いを胸に、世界に誇れる武道の殿堂・武徳殿にて毅然と検証委員として対応が出来たことは、私自身、今後の成長の糧となる大変貴重な体験が出来ました。

大日本武徳会によせる責務の重さを感じ、会員一人一人が武徳会に未来的な発展と貢献に寄与し恥じないよう精進し、努力を続けて居合道の普及に尽力し、青少年の指導育成に努めてまいります。

世界は一つを合言葉に益々の精進を重ね、一般社団法人大日本武徳会国際部の益々の発展を願うものであります。

京日記



◆居合や柔術といった古武道の演武を披露する「全国武徳祭」

が29日、京都市左京区の京都市武道センター・旧武徳殿で開かれ、参加者約300人が目まぐるしい修練の成果を力強く演じた。写真。

◆全国各地の団体に加え、フランスやロシアからの参加もあった。静まり返った会場で、迫力のある技や美しい形が次々と披露され、観客は息をのんで見守った。

◆大日本武徳会が毎年開いており、53回目。今年会同会創立120周年にあたり、高田寛次理事(86)は「節目の年らしく、緊張感のある演武が続いた」と話していた。(阿部秀俊)